

世田谷区軟式野球連盟  
大会規定・試合細則  
日程について

[一般部]

世田谷区軟式野球連盟 S.B.B.L.

## 1 大会規定 (総則)

世田谷区軟式野球連盟(以下、当連盟という)主催の大会規則は、本大会規定以外は『公認野球規則』および公益財団法人全日本軟式野球連盟(以下、全軟連という)の『競技者必携』を適用する。

(1) チームの編成、登録は男女を問わない

監督を含む選手 10 名以上 100 名以内とする。

背番号は監督 30 番、主将は 10 番として、選手は 0 番から 99 番までとする。

(2) 大会でベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督を含む選手と、チーム責任者、マネージャー、スコアラー等各 1 名とする。

(3) 監督会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。

(4) 打順表の提出は、試合開始予定時刻 30 分前までに大会本部(二子玉川緑地運動場駐車場付近)に 4 部提出して照合を受けること。打順表の記入は、必ず全員フルネームで記入すること。

(5) 試合開始時及び終了時に 9 名以上いないチームは棄権とみなす。

(6) 監督・主将不在でも試合は認めるが、代理の場合は打順表に「代理」と必ず明記すること。

**(7) 当連盟の大会に参加できるチーム、監督および選手は、野球競技者登録システム「野球ねっと」に登録されているチームおよび構成員に限るものとする。**

**(8) 構成員登録がなされていない選手を出場させる場合は、当連盟が定める所定の追加登録手続きを行わなければならない。**

(9) 当連盟チーム間での異動は同一年度内には原則認められない。但し、チーム間での協議が成立し、当連盟の許可を得ている場合はこの限りではない。

(10) 不正登録チームに対する処置

① 試合中に不正が発覚した場合は、対戦相手チームに勝ちを与える。

② 試合終了後に不正が発覚した場合は、次の対戦チームに勝ちを与える

③ 決勝戦終了後に不正が発覚した場合は準優勝チームに勝ちを与える。

④ 不正を行ったチーム及び、選手には規律委員会より相当の処分を科す。

(11) 試合時間は「90 分」とする。

但し、決勝戦においては特別時間規定を設ける場合がある。

(12) 球審が試合で最初に『プレイ』を宣告した時を試合開始時間とする。

(13) 正式試合の回数は 7 回とする。

① 但し、時間制を採用しているので時間を優先する。

② 上記採用に伴い、正式試合回数を定めない。

③ 本連盟では、全ての均等回数の得点によって勝敗を決する。

勝敗が決しない場合は特別延長戦(タイブレーク方式)を行う。

タイブレークは無死一二塁で継続打順とする。但し、投手が走者となった場合、前位の打者を走者とすることができる。

④ 特別延長戦は最大 2 イニングとし、同点の場合は抽選とする。

⑤ 雨天等により試合が中断された場合は、大会本部の決定に従うこと。

(イ) 試合時間が 60 分を過ぎている場合は成立試合とする。

(ロ) イニングが4回を超えている場合に於いても成立試合とする。

この場合均等回の得点をもって勝敗を決する。

(ハ)同点の場合、抽選とする。

(ニ)上記以外は、再試合とする。

(14) 得点差によるコールドゲームは全試合に採用する。

① 3回以降10点差・5回以降7点差とする。

(15) ベンチは、抽選番号が若い方が一塁側（後攻）とする。

(16) グラウンドルールは各面の担当審判員に確認をし、審判員の指示に従う事。

(17) 抗議については、監督、または主将と当該選手以外の抗議は認められない。

(18) 放棄試合はいかなる理由があろうとも認められない。

(19) 次の行為を行った選手に対しては理由の如何を問わず直ちに退場をさせる。チーム関係者であっても同等の処置をとる。

① **身体的暴力および言葉による暴力を行った者。**

② 試合に際して、暴力行為等フェアプレーの精神に明らかに違反した者。

③ 上記行為をした者、及びチームに対しては、規律委員会より相当の処分を科す場合がある。

(20) 大会使用球については、当連盟が指定したボールを公認球とする。

(21) ユニフォーム及び用具について。

① 用具、装具およびユニフォームは、次に定められたもの以外は使用できない。

② バットは、公認野球規則で規定されるもののほか、次による。

(1) バットは一本の木材で作った木製バットのほか、竹片、木片などの接合バットであること。  
木製バットについて公認制度を適用しない。ただし、着色の制限はある。

(2) 金属・ハイコンバット（複合）は、**J.S.B.B** のマークをつけた全軟連公認のものに限る。  
なお、素振り用パイプ及びリングの使用を禁止する。

(3) 後付けグリップ等、市販の**J.S.B.B** のマークをつけた全軟連公認バットに付け足しや改造が見受けられた場合は使用を禁止する。

③ 捕手は、**J.S.B.B** のマークをつけた全軟連公認レガーズ、プロテクターおよび**SG マーク付き (Safe Goods =製品安全協会のマーク) のマスク (スロートガード付)**、捕手用ヘルメットを着用しなければならない。また、ファウルカップも着用しなければならない。

なお、捕手はキャッチャーミットを使用することを推奨する。

④ 打者、次打者および走者は、**J.S.B.B** のマークをつけた全軟連公認および**SG** マークのついた両側か片側にイヤーフラップのついたヘルメットを着用しなければならない。なお、イヤーフラップは両耳が望ましい。なお、ベースコーチもヘルメット着用を推奨する。

⑤ ユニフォーム、スパイク等は、次に定めるものを着用しなければならない。

⑥ 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。

⑦ 袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による「東京都」または支部名をつけること。左袖には他のものをつけてはならない。（関東大会、全国大会は「東京都」または「TOKYO」）

- ⑧ 胸のチーム名は日本字またはローマ字で表示し、チーム名の代わりにマークをつけることができる。ただし、統一しなければならない。
  - ⑨ 背番号の規格は、最小限 15.2 センチ以上。最大限長さ 21 センチ、幅 16 センチ、太さ 4 センチ以内とする。
  - ⑩ ユニフォームの背中に選手名をつける場合は、全員が背番号の上にローマ字で姓のみとする。ただし、同姓の者がいる場合は、名の頭文字を入れてもよい。
  - ⑪ アンダーシャツは全員同色のものでなければならない。
  - ⑫ 帽子は、全員同色、同形、同意匠のもの。また、ストッキングは全員同色のものでなければならない。
  - ⑬ スパイクの色は自由とし、全員が同色でなくても構わない。ただし、野球用スパイクとする。
  - ⑭ サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、投手は使用できない。  
なお、帽子のひさしの上にかける事は禁止する。
  - ⑮ ネックウォーマーの使用を認めるが黒色・紺色とする。
- (22) 相手チームや審判員に対する聞き苦しいヤジは厳禁とする。
- (23) 指名打者ルールを使用できるとする。公認野球規則 5.11 に準ずる。
- (24) 壮年部の大会については、上記大会規定以外の特別規定を設けていますので、詳細については壮年部特別大会規定に従う事。

## 2 試合細則

- (1) 試合開始予定時刻  
トーナメント表に記載した時刻とする。
- (2) 試合はスピーディーに行い、攻守交代は速やかに行う事。
- (3) 投手が捕手のサインを見るときは、投手板について見る事。
- (4) 投手は捕手からの返球を受けたら直ちに投手板を踏んで投球体制に入ること。
- (5) 投手の準備投球は初回 8 球以内とし、2 回以降は 4 球以内とする。(1 分以内とする)
- (6) 守備終了後はボールをマウンドに置いてベンチに戻る事。(雨天時はこの限りではない)
- (7) 打者は、投手が投球位置にいる、いないに関わらず速やかに打者席に入ること。
- (8) 打者がサインを見るときは、打者席からとし、思うがままに打者席を外すことは許されない。
- (9) 次打者はヘルメットをかぶり次打者席にて待機する事。
- (10) 内野手間の転送球は初回のみ認める。
- (11) タイムは 1 分間を限度とする。但し、審判員が認めた時はこの限りではない。
- (12) タイムの回数制限について。
  - ① 1 試合 3 回までとする。(攻撃時・守備時)
  - ② マウンドに二人以上の野手が集まった時は 1 回とする。
  - ③ 選手交代の為に集まることはこの限りではない。
- (13) ファウルボールについては、攻撃側またはボールの飛んだベンチ側で取りに行き、汚れを落として球審に渡す事。
- (14) 審判員の判定に対する抗議は厳禁とする。
- (15) グラウンド以外でのキャッチボール、トスバッティング等は禁止する。禁止場所でこのような

行為をして通行人などに怪我をさせた場合チーム若しくは当該者の責任となりますので十分注意してください。

- (16) ベンチには、チーム責任者、監督、コーチ、スコアラー、選手以外は入れません。  
子供、乳幼児はベンチに入れず安全な所で応援させてください。
- (17) 足を高く上げてのスライディング、及び作為的な空タグは禁止する。
- (18) プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁止する。
- (19) ホームラン等で走者を出迎える時は、自軍ベンチ前のみとし、本塁上及び走路付近に出ることを禁ずる。
- (20) 投手はリストバンド（サポーター・手袋）等の使用を禁止する。尚、負傷などによりやむを得ず必要とするときは審判員の許可を得るものとする。
- (21) 勝利チームは試合終了後、グラウンド整備をする事。
- (22) 次試合先発バッテリーは、試合開始予定時間 50 分前に当該グラウンド外野フェールエリアにて投球練習を許可する。野手のキャッチボールは認めない。

### 3 クラス編成について。

- (1) 一般部  
1部・2部・3部・4部とする。
- (2) 壮年部（40歳以上で編成するチーム）  
40歳以上とは、基準日は4月1日現在です。（例）40歳になる誕生日が5月とか12月では登録できません。

### 4 チーム審判員制度

塁審は、「勝ち審」制とし、第1試合は連盟の公認審判員（3人）で試合を務めるが、第2試合以降、球審は連盟の公認審判員とし、塁審は前の試合の勝ちチームから塁審2名を出すこととする。

不戦勝の場合も適用とする。

### 5 昇格、降格について。

- (1) 1部への昇格 前年度開催完了大会2部優勝チーム、および直近2年間の成績優秀チーム。
- (2) 2部への昇格 前年度内開催完了大会3部優勝・準優勝のチーム。  
※上記以外に、各クラスのチーム編成状況、及び試合結果等により連盟にて推薦昇格する場合があります。  
推薦昇格チームで、チーム状況により、昇格を望まない場合は連盟事務局に申し出てください。  
※年度内に大会が終了できなかった大会の昇格は、大会完了年度の翌年となります。
- (3) 降格については採用しない方針ですが、チームからの申し出があった場合は連盟役員が協議して決定する。

### 6 王座決定戦出場規定

王座決定戦は年度内最後の大会とし、年度内に開催された大会（1部・2部・3部）の優勝・準

優勝・三位及び連盟推薦チームを出場資格チームとする。

## 7 試合を棄権する場合について

やむを得ず棄権する場合は、試合当日大会本部に電話で連絡をすること。

試合当日に棄権連絡し、雨天中止の場合は棄権を解除する。ただし、試合宣告後に中止の場合は不戦敗として試合成立とする。

前日までに棄権を申し出た場合、試合当日 1 試合でも試合を開始したら不戦敗とする。

## 8 大会日程の確認について

大会開催の有無、組合せ、日程、日程変更、結果につきましては連盟ホームページにて確認ください。トーナメント表に記載している日程を正式な日程とする。

**<https://sbbl.tokyo>**

※日程変更などの確認は各チーム責任を持って行ってください。

※大会の進行状況により、日程の変更もしくは試合時間の変更を行うことがあります。

※順延は必ずしも同じグラウンド、同時間帯にならないことがあります。

ホームページ以外の確認方法

大会開催日は下記あてにご連絡ください。

**0 8 0 - 9 4 6 1 - 6 7 1 9**

**連絡時間 9 : 00 ~ 15 : 00**

1 9 9 9 年 1 月 作成  
2 0 1 3 年 1 月 一部改正  
2 0 1 4 年 1 2 月 一部改正  
2 0 1 6 年 1 月 一部改正  
2 0 1 7 年 2 月 一部改正  
2 0 2 0 年 1 月 一部改正  
2 0 2 1 年 1 月 一部改正  
2 0 2 2 年 1 月 一部改正  
2 0 2 2 年 5 月 一部改正  
2 0 2 3 年 2 月 一部改正  
2 0 2 4 年 2 月 一部改正  
2 0 2 5 年 2 月 一部改正  
2 0 2 6 年 2 月 一部改正